

## 【リビジョンアップ】 統合開発環境 e<sup>2</sup> studio V7.7.0

R20TS0532JJ0100  
Rev.1.00  
2020.01.16 号

### 概要

統合開発環境 e<sup>2</sup> studio を V7.6.0 から V7.7.0 へリビジョンアップしました。

製品の概要は、以下の URL をご参照ください。

<https://www.renesas.com/e2studio>

### 1. アップデート対象バージョン

- e<sup>2</sup> studio V7.0.0 以降 V7.6.0 までの各バージョン

e<sup>2</sup> studio のバージョンは、e<sup>2</sup> studio のメニュー「ヘルプ」から、「e<sup>2</sup> studio について」を選択すると開くダイアログに表示されます。

### 2. リビジョンアップ内容

主なリビジョンアップ内容を以下に記します。詳細は、リリースノートをご参照ください。  
(1月20日から公開予定)

<https://www.renesas.com/search/keyword-search.html#genre=document&q=r20ut4673ee>

Microsoft 社の Windows 7 サポート終了に伴い、e<sup>2</sup> studio は V7.6.0 をもって Windows 7 のサポートを終了しました。

#### 2.1 機能改善

以下の機能改善を行いました。

改善内容の詳細は前述のリリースノートの"**What is new in 7.7.0?**"をご参照ください。

##### 2.1.1 新コンパイラ対応

新しくリリースされた以下のバージョンのコンパイラに対応します。

- ◇ RX ファミリ用 C/C++コンパイラパッケージ(CC-RX) V3.02.00
- ◇ RX ファミリ用 C/C++コンパイラパッケージ(CC-RX) V2.08.01
- ◇ RL78 ファミリ用 C コンパイラパッケージ(CC-RL) V1.09.00

##### 2.1.2 ビルド関連機能の改善

###### (1) スタック解析機能の改善

機能改善内容を以下に示します。

- スタック解析ビューで、関数が要求するスタックサイズの一覧を下記二種類の形式で切り替えて表示できるようになります。
  - ◇ 各関数が単体で使用するスタックのサイズ (V7.7.0 で追加)
  - ◇ 呼び出し先の関数を含めたスタック最大値
- スタック解析ビューで、従来の関数コールツリー形式に加えて、表形式でも表示可能となります。

- スタック情報ファイル(\*.sni)から CSV ファイル形式への変換が GUI なしで行えます。
- コンパイラオプション設定画面でスタック情報ファイルの出力有無は 1 クリックで切り替えられます。

#### (2) RTOS プロジェクトのヒープサイズ見積り機能の追加

RTOS プロジェクトで、タスク/キュー最大設定値を基に見積もったヒープサイズを表示します。

#### (3) C/C++プロジェクト設定ボタンの追加

ツールバーに C/C++プロジェクト設定ボタン(  )が追加されます。プロジェクト設定画面を 1 クリックで起動できます。

同じ作用をするコンテキストメニューおよびショートカットキー(Ctrl+Alt+P)も併せて追加されます。なおプロジェクトエクスプローラのプロパティ設定画面起動のショートカットキー(Alt+Enter)は従来通り使用可能です。

### 2.1.3 デバッグ関連機能の改善

#### (1) Free RTOS プロジェクトのタスク実行状況表示機能の追加

Free RTOS プロジェクトのデバッグ時、タスクの TotalTickCount および DeltaTickCount を表示します。各タスクの CPU 使用状況がリアルタイムに把握できます。

#### (2) ID コード入力画面の改善

ID コードの入力形式を従来のバイトストリーム形式(デバッガ起動パラメータの形式)に加えて 32bit 値 x 4 組および 128bit の 16 進数形式でも入力可能になります。また入力時にはバイトストリーム形式でのレビューをリアルタイムに表示します。

### 2.1.4 Amazon FreeRTOS プロジェクトサポート機能の改善

Amazon FreeRTOS プロジェクトに関する以下の機能が追加および改善されます。

- GGD, MQTT, Device Shadow などの AWS (アマゾン ウェブ サービス) ライブラリを、スマートコンフィグレータの画面上で追加・設定することができます。AWS クラウドやサービスと連携する IoT アプリケーションの開発が容易になります。
- 「RZ/A2M FreeRTOS™ ソフトウェア開発キット」の利用により、RZ/A2M グループで Amazon FreeRTOS プロジェクトが e<sup>2</sup> studio 上で開発できます。  
詳しくは、同開発キットのページをご覧ください

<https://www.renesas.com/rza2-software-development-kit-free-rtos>

### 2.1.5 デバイス対応機能一覧にスマートコンフィグレーターの対応有無表示を追加

「e<sup>2</sup> studio について」から表示できる'Renesas Device Support'(デバイス毎の対応機能一覧表)タブ内に SC(スマートコンフィグレーター)への対応有無表示を追加します。

### 2.1.6 My Renesas ログイン状態・設定ダイアログを追加

ワークスペースのプロパティ内に「My Renesas」ダイアログが追加されます。現在ログイン中のユーザーアカウントの確認やログイン状態の解除および別アカウントでの再ログインの操作が行えます。

## 2.2 サポートデバイスの変更

以下のデバイスについて、サポートの追加およびデバイス情報の更新を行います。  
サポート対象のデバイス型名はリリースノートでご確認戴けます。

➤ RL78 周辺機能シミュレータの対応デバイス追加

RL78/L12 グループ、および RL78/G13A グループで周辺機能のシミュレーションや消費電流計測シミュレーションが使用可能になります。

## 3. アップデート方法

以下の URL から e<sup>2</sup> studio のインストーラをダウンロードし、インストールを行ってください。  
(V7.7.0 は 1 月 20 日から公開予定)

[https://www.renesas.com/e2studio\\_download](https://www.renesas.com/e2studio_download)

注意 1: 製品のダウンロードページには、インストールに関する注意事項が記載されておりますので事前にご確認ください。

2: e<sup>2</sup> studio をアップデートした際には、新たに作成したフォルダをワークスペースとして指定してください。既存のプロジェクトを御使用の際は新しいワークスペースにインポートしてください。

以上

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	Jan.16.20	-	新規発行

本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。

ニュース本文中の URL を予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

[www.renesas.com](http://www.renesas.com)

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

[www.renesas.com/contact/](http://www.renesas.com/contact/)

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。